



Rotary International District 2650 Nara Japan

奈良大宮ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■創立：昭和54年1月23日 ■例会：毎週火曜日 17:30

■事務所：奈良市大宮町6丁目2-1 南都銀行大宮支店内 電話 0742-33-8583

■例会場：奈良市高畑町1096番地 奈良ホテル本館 電話 0742-26-3300(代)

■会長：富川 悟 ■副会長：小西敏文 幹事：植村将史



お祝（華厳宗管長・東大寺別当普山）・河原公敬 君

第41回 5月15日 遷都1300年祭記念例会

ようこそ、太宰府ロータリークラブ・恵比寿ロータリークラブの皆様

- 卓話 「はじまりの奈良 めぐる感動」
平城遷都1300年祭・愛知万博チーフプロデューサー 福井昌平 氏
- コンサート 「まつぼっくり少年少女合奏団」

1505回例会

<会長報告>

本日4時から定例の理事会がありました。決定事項を申し上げます。

一、5月15～16日に行われます友好クラブとの合同例会、懇親会、翌日のゴルフ・観光についての最後の決定を致しました。詳しくは皆さんご存知の通りですが、また其々必要に応じて連絡があるかと思いますが、よろしくお願い致します。

二、今年度この平城遷都1300年祭とそれに伴う行事、また2月3月、4月には鴟尾の会、県下の会長幹事会等色々な行事がありました。当クラブでは今年はお費が高んでおりまして、皆さんの会費だけでは若干賄いきれない所がでてまいりました。臨時会費を徴収する訳にはいきませんので、今年度は一部積立金を取り崩してそれに流用する、ということを経営会において決定致しました。

それと、もう一つ。これだけは皆さんよくお聞き頂きたいと思ひます。2650地区と5000地区の交流が何年か前から始まっておりまして、その中で姉妹クラブ提携の話が出ておりましたが、ハワイのオアフ島にあるミリタリーサンライズクラブがどこか提携するクラブがないかと探しており、私共のクラブを含め3クラブがノミネートしておりましたが、その中で当クラブが選ばれました。今日、平城京の中窪委員長がお見えになりまして、なんとか締結をしませんかと連絡を頂きました。最終受付け等正式な事ではありませんが、現在そのような話になっております。早急に協議し、決定し、返事をしなければなりません。少し大変ですが、これは今年度だけではなく次年度にも関わってまいりますので、十分慎重に協議して決定したいと考えております。

まだ多少他にも理事会での細かい項目はありますが、主な項目は以上です。

次週の例会

5月25日(土)
卓話 会員卓話 松岡 嘉平治
テーマ「まず健康」

本日のお客様

- ・野崎 正史 様 (東京恵比寿RC)
- ・平川 泰孝 様 (京都山城RC)

▼次項へつづく

発行日 / 2010年5月11日
2009-2010 / 40

Vol.31

No. 1506

HP: <http://naraomiya-rc.jp>
E-mail: info@naraomiya-rc.jp



育てよう人。

2009～10年度
第2650地区のテーマ

『育てよう人』

国際ロータリー第2650地区
ガバナー 富田謙三



四つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

例会プログラム

第41回 5月15日
通算1506回

1. 開会の点鐘 12:30
2. ソング
「奉仕の理想」
3. お客様の紹介
・太宰府ロータリークラブ
会長 武石清一 氏
・東京恵比寿ロータリークラブ
会長エレクト 石井義興 氏
・国際ロータリー第2650地区
ガバナー補佐 熊本國勝 氏
4. 来賓挨拶
5. 会務報告
6. 閉会の点鐘

例会状況報告

第40回 5月11日
通算1505回

R.C.は出席から 1505回

- 会員数 69名
- 出席免除者数 21名
- 出席者数 60名
- 補填者数 -
- 出席率 90.9%

1503回の修正

- 会員数 69名
- 出席免除者数 21名
- 出席者数 62名
- 補填者数 2名
- 出席率 95.4%

委員会報告

有井職業奉仕委員長

職業奉仕委員会から再度お願いを申し上げたいと思います。本年度の事業計画の一つであります冊子を作らせて頂くということで、職業奉仕に関する「かく思う」、をお願いしておりますが、残念ながら今のところ三分の一の提出者しかありません。三分の二以上ないとやめさせて頂きたいな、と思っております。まだ出してないな、という心当たりのある方は提出して頂きたい。「もうやめようよ」とおっしゃるなら今日そのようにおっしゃって頂けるなら有難い、このように思います。よろしくお願いします。

高野社会奉仕委員長

まず5月6日7日、平城宮跡会場で、当クラブ担当ということで、受付案内ボランティアに多数ご参加頂きまして誠に有難うございました。お礼申し上げます。それと、5月15日の平城宮跡会場に於ける例会の件ですが、前回の例会時に状差しに案内状を入れさせて頂いておりますので、再度目を通して頂きたいと思います。メンバーの皆様は一部の方を除いて直接例会場であります平城宮跡資料館の講堂にお集まり頂きますようお願い致します。12時半例会開始ですので、必ずそれに間に合うように来て頂くようお願いいたします。それと、そちらの資料の方に地図を付けておりましたが、表口から入ることができませんので、裏口から入って頂くようお願いいたします。社会奉仕委員会の皆様に関しましては、昨日FAXを送らせて頂きました。今日この後実行委員会がありますので、委員会を開くことはできませんが、必ず昨日お送り致しましたFAXをお目通し頂きますようお願い致します。当日は朝の9時に必ず集合して頂きますようお願い致します。

それと、友好クラブの皆様のアテンド担当ということで、特別に決めさせて頂いております。東京恵比寿の方が責任者北河原さん、副責任者小西さん、ということで、以下武藤さん、潮田さん、野上さん、谷川さん、山本（尚）、水野さん。この方は責任者、副責任者から直接指示を仰いで頂きたいと思います。太宰府の方は、責任者有井さん、副責任者中條さん、担当として藤井さん、石野さん、野崎さん、倉田さん。こちらも直接指示を仰いで頂けたら、と思います。

増井親睦委員長

事業続きで大変ですが、最後の最後です。

6月6日年度末家族親睦例会のご案内をさせて頂きます。6月6日11時30分より受付開始。例会が11時40分～。奈良パークホテルで開かせて頂きます。内容は盛りだくさんで次年度の発表、ご挨拶、最後はハワイアンダンスショーということでハワイアンダンスのコンテストも企画しておりますので、是非皆さんご参加よろしくお願い致します。会費はぐっと抑えまして会員の皆様は4,000円、家族の皆様は2,000円です。森下さんの娘さんはディフェンディング・チャンピオンということで、是非参加して頂きますようお願い致します。またダンスコンテストを用意しておりますので、是非皆さんご参加お願いいたします。

次年度幹事・石野会員

本日皆さん方の状差しに次年度委員会構成表と委員会構成表(個人単位)というのをお入れ致しました。宜しくお願い致します。

北河原会員

先程はクラブからご丁寧なお祝いの金一封を頂きまして誠に有難うございます。私はそういうつもりは全くなかったものですから、驚いております。普山の記念ということで、先程の頂きましたクラブの方に寄付をさせて頂こうと思っておりますので、どうかご了解頂きたいと思います。5月27日に普山式を予定しております。少し遅れておりますが、皆さんの方にもいずれ案内がいくかと思いますが、お時間がございましたらどうか宜しくお願い致します。

今日ここに登らせて頂いたのはそういうこととは全く関係がなくて、実は、世界宗教者平和会議(WCRP)という組織がございまして、今年はその世界宗教者平和会議が平城遷都1300年祭の記念事業の一つということで、奈良で秋に開かれることになっております。9月25～27日迄ですが、実はこの世界宗教者平和会議では昨年から"ARMS DOWN!"といって全世界共通の署名を行っております。これはどういったことかと申しますと、世界の全ての国の軍事費が大体140兆円あるそうですが、その140兆円の10%を削減してもらって、その10%でもって恵まれない国、恵まれない子供たち、ロータリーでもやっておりますが色々な子供たちに対する予防接種、そういうものにその費用を回してもらおうという運動の為の署名キャンペーンです。これには一切お金はかかりません。ただ、お名前を書いて頂く訳ですが、お子様でもこれは書いて頂いて良い、ということになっております。できるだけたくさんの方の署名が必要です。といいますのは、全世界で5000万人の署名を集めるということですが、その内の1000万は実は日本で、ということになっております。ということは日本では10人に一人は署名して頂かないと達成できないという非常に膨大な計画でございまして、その推進をするために実は奈良県でも特別の委員会を立ち上げておまして、私が会長をさせて頂いておりますので、今、そのことを皆様をお願いしているところでございます。この署名が集まりましたら、国連に届けますが、現在の国連の事務総長が実はこれを非常に応援してらっしゃるということですので、集まりました署名は常任理事国、或いは各国のトップの方に届けて、なんとか軍事費を削減してもらって、恵まれない人のために回してもらおう、という運動の署名キャンペーンを全世界で展開しています。最初に署名してくれたのがコスタリカという軍隊のない国です。そういう訳では是非皆さんにご協力頂きたいと思います。甚だ恐縮ですが、状差しに一枚ずつ入れさせて頂いております。1枚20名署名できます。ご家族でも知り合いでもどなたでも結構ですので、署名して頂いて私の方に提出して頂けたら、と思います。また、会社等で沢山の方に署名頂けるという場合は、おっしゃって頂けたら用紙をお渡しします。是非ご協力をお願いします。

幹事報告

本例会終了後、遷都1300年祭記念例会の実行委員会の最終確認になるかと思いますが実施したいと思いますので、よろしくお願い致します。会長、副会長、会計、会場監督、友好担当委員の中条さん、有井さん、北河原さん、それと高野さん、増井さん、谷川さん。出たロビーの所で行いたいと思いますので、宜しくお願いします。

お祝（華厳宗管長・東大寺別当普山）

・北河原公敬 君

委嘱状

<2010-2011年度国際ロータリー第2650地区 栗田幸雄ガバナーエレクトより>

- ・☒ 植倉 一正 君（米山奨学委員会委員）
- ・☒ 宮西 正伸 君（会員増強・拡大委員会委員）

<財団法人ロータリー米山記念奨学会 板橋敏雄理事長より>

- ・☒ 多田 実 君（米山奨学生・崔潯仁さんのカウンセラー）

ニコニコ箱 本日計 36,000円 累計 2,213,000円

野崎 正史 様 エビスRCの野崎です。今月15日には大勢で参ります。よろしくお願ひします。

戸所 岩雄 様 本日は社会奉仕に関して卓話の機会を頂き有難うございました。新緑の奈良を楽しませて頂きます。

北河原公敬 君 多額のニコニコをいただきました。

松岡 弘樹 君 連続欠席のおわびと結婚記念日のお礼です

宮西 正伸 君 ニコニコ協力です。

飯田 二昭 君 「ロータリーの友」5月号のロータリー俳壇で選に入りました。太宰府ロータリークラブからいただいた梅の木が中村さんのアドバイスで蘇ってくれました。

平方 貴之 君 この度結婚することになり、5/1付で入籍いたしました。相手は北九州の方でピアノ講師をしております。挙式等は母の1周年を終えた後、来月の13日に九州で行う予定です。

東田 幹章 君 神野山の山歩き会皆様大変お世話になりました。古代人の遺跡をしのぶロマンを感じました。

矢追家麻呂 君 箸尾さん先日はお世話になりありがとうございました。

藤井 正勝 君 矢追会長エレクト ありがとうございます。感謝！！

柴田 直三 君 結婚記念のお祝ありがとうございます。



金沢を訪れて 山本尚永

兼六園を見たいと言っていた母の喜寿を祝って、金沢に行ってきた。

折しも、今、奈良は平城遷都1300年祭が開催されている。金沢駅に着くや「奈良を歩こう」という大きな看板が目に入った。思えば、どちらも歴史のまち、時代背景の違いはあっても、変転する時の流れの中でろ過され磨かれてきた先人達の営みと文化遺産という点に於いて変わりはない。

水戸の偕楽園、岡山の後楽園と並ぶ日本三名園の一つである兼六園は、噂に違わぬ圧巻であった。新緑が目にしめるようで、私は三度目だが、季節によって見せる顔は異なり何度も訪れたいと思わせる庭園であった。この近くの藩祖前田利家をまつる尾山神社の楼門のギヤマンが、夕日に映えて美しかった。

宿は北陸の山海の幸に恵まれた新鮮な食材を加賀の歴史が育んだ蒔絵や九谷焼の見事な器で演出し、心から堪能した。何よりも母への細やかな心遣いが暖かく、嬉しかった。

そして、奈良を訪れる多くの人達に対して、私達が忘れてはならないものも、やはり、この「もてなしの心」だと実感した旅でもあった。



▼次項へつづく

「社会奉仕について」

国際ロータリー第2650地区 社会奉仕委員長 戸所 岩雄 氏

本日は社会奉仕に関わりましてお話をさせて頂く機会を与えて頂き、本当に感謝しております。

先ほどからお話を伺っておりますと、この奈良大宮クラブは大変社会奉仕活動を、高野委員長をはじめ、会長、メンバーの方々が大変熱心に取り組んでいらっしゃるということです。今更という気も致しますが、お役目ということで少し社会奉仕についてお話をさせて頂きたいと思いますので、ご清聴お願いします。

今更という感じがしますが、これは私だけかも知れませんが、どうも社会奉仕を考える時に、「何故社会奉仕をするのか」ということが頭を過ることがあります。よく言われるように正義感・倫理観に基づく人道主義的な行為とお考えの方もいらっしゃるし、また子どもや近隣の友人・知人、次の時代へ豊かさを受け継いで（継承して）行く為のある意味ミッションとしての行為であるとお考えの方もいるかと思ひます。先程少しお話がありましたように、“ロータリーは人生哲学である”。

これは、生きる意味なども含めて自己達成、ひいては自分の人生を豊かにする一つの手立てとしての行為である、とお考えになる方もあろうかと思ひます。

社会行動や価値観などが混迷している現代にあって、我々が今まで学んできた奉仕する側の想い、またひいては奉仕を受ける側の想いに変化が生じている、最近よくそのように言われます。また、奉仕自身を目的として捉える考え方もありますし、先ほどの話にもあります自己の人生を豊かにする一つの手立てとしての奉仕というものもあり、奉仕に対する考え方も多岐、多様に渡っている昨今かな、と思ひます。

環境の問題だけで言いますと、温暖化や我々が予想しなかった極端な少子高齢化の進行、そのような時代・社会構造の中にあって我々は今までと同じような奉仕の考え方・理念で良いのでしょうか。いま、この混迷の時代にあるからこそ、今一度捉えなおしをして、長期的な地域や社会像を皆が共有する必要、その一つの手立てとしての奉仕の在り方を考えるということのもそう無駄なことではないのかな、という思ひもします。

では、我々ロータリアンにとっての“社会奉仕 (CommunityService)”というのは歴史的にどのような位置付けをされてきたか、少し考えてみようと思ひます。ご存知のように、ロータリークラブは1905年につくられた訳ですが、その同じ時代背景の中に、1915年にはキワニスクラブが設立され、1917年にはライオンズクラブ、更には1922年にはYMCAを母体としたワイズメンズクラブ等が、時を同じくしてソーシャルサービスクラブとして誕生したということです。この時代背景というのは丁度100年ほど前になるのですが、産業構造が大変大きく発展し、商工業が発展し、労働人口として人々が都市へ大量に流入した時期に当たる訳です。今まで自分たちが生業としてきた故郷の共同体や生活の糧、人との繋がりを含めた故郷での共同体の分離、分断された背景を持ちながら都市で生活する人が増えてきた、ということと時を同じくする訳です。その中で人々は、企業や都市、コミュニティを柔軟的にクロスオーバーするような新しいネットワークの必要というものを時代の背景の中で感じていたのではないかな、そのようなことの中で新しくソーシャルクラブが誕生したのかな、というふうに言われています。

ロータリーは元々出発の時点においては、「物質的な相互扶助」ということでスタートした訳ですが、1907年（設立から2年後）には「社会奉仕の考えを活動に取り入れれないことには恒久的、永続的クラブの運営、活動ができない（単なる互恵の組織には永続性は期待できない）」という反省のもと、それは一つに（先ほども報告の中にあったように）我々の利己的、物質的損得の中での自分の利害、損得という面での利己的な欲求というものと、もう一つは“超我的奉仕”という自分の利害を超えた他人への奉仕という、これは言葉にすると簡単ですが一人の人間の中の相反する二つの心の葛藤というのがあり、そういうことの中でその葛藤を調和する必要がある、そのことから“奉仕”という理念を導き出し、その“奉仕の定義”をロータリーの中で育まれてきたといわれています。

現在我々が“社会奉仕”として使うジャンルのものは大きく分けて4つのジャンルのものを扱っております。「人間尊重」「地域発展」「環境保全」「協同奉仕」、この4つをカテゴリーで我々は活動を行っている訳ですが、最近はこの4つ各々のジャンルに属するというだけでなく、「人間尊重」でありながら「環境保全」、また「地域発展」が「環境保全」に繋がるなど、この4つのジャンルを超えた（境目が明確ではない）、より効果的にその活動をするためにコラボレーションを行う事業というのが各クラブのロータリーの事業の中で増えてきているように思ひます。これ（プロジェクター上の表）は、この2650地区（京都・奈良・福井・滋賀）が2006-2007年度、2007-2008年度、2008-2009年度の各1年間で毎年社会奉仕の行われた事業についてのアンケートをとらせて戴いております。この4つのジャンルに分けたものの中で、傾向からいきますと、滋賀・福井は（これは地域柄というのものもあるかも知れませんが）環境保全に関わる事業が平均より少し多く行われております。また、奈良・京都に関しては宗教に関わる方、また医師の大変多いクラブもあるかと思ひますが、その傾向ということもないのかも知れませんが「人間尊重」を扱う事業が多い傾向がみられます。これは毎年といひますか、一昨年の傾向を見ても同様です。更に昨年の傾向を見ても（少し変化はあるものの）大きく変わらない。更には各府県の中でもどちらかという、このような「人間尊重」などを色々な形で関連付ける傾向が大きくなってきている。実はコラボレーション事業は「人間尊重」と「環境保全」の両方に関連しているということで、昨年等の累計数字が大きくなっているというのは「人間尊重」でありながら「地域発展」に関わる事業等、単に一つのジャンルだけでは扱いきれない範囲を扱うコラボレーション事業が増えてきているというのがこの中から読み取れると思ひます。



我々が社会奉仕を考えるに当たり、色々地区の委員会の中でもお話をしたりしております。「社会奉仕というのは基本的には”何をするのか（手法・手立て）”が問題ではなく、”何故するのか（価値観・人生観）”が大切である」という風に言われます。我々ロータリアンを含めた市民というのは”奉仕”というものの対する直接的な担い手であると同時に、時としては金銭的な支援、人間的な支援、パトロンとしての役割を担う訳ですが、これは先ほどの、他者に対する奉仕、他者に対する恩恵ということだけでなく、取りも直さずその担い手である我々市民・ロータリアンに紛れもなくその精神的、また（環境が良くなる等）実利的なものを含めた恩恵が直接的にもたらされているということを認識する必要があるかと思えます。

昨年の川端ガバナーは、ご存知のように「まちづくり」に関して大変見識のある方です。川端ガバナーは、「～次の世代にときめきを～死に甲斐のある終（つい）の?（すみか）のまちづくり」というテーマを掲げ、それを我々に「豊かな町」等という抽象的なことではなく具体的に「終の?のまちづくり」ということで我々の前に明確に打ち出されました。これについてはガバナー公式訪問の中で滔々と述べられたかと思いますが、実は福祉・経済・産業が豊かである、自然環境が良い、それをトータルの的に判断し、この町で最期を迎える、このまちで住み続けることの豊かさというものを感じ取る為には、そのことを一つの目的の為に色々な環境・産業・商業・観光の問題、それを豊かにするということを含めたトータルで一つの形としての目的を明確にされた、ということです。

本年度の富田ガバナーは、「”育てよう、人”」ということで、その担い手であるその人、これは次の世代の人たちへの教育を含め、もとより我々ロータリアン自身がその担い手として相応しい人間になるように自助努力をしましょう、ということをおっしゃられたのかな、と思っております。

近代人・現代人にとって、我々の教育は「近代合理主義的価値観」とでもいいですか、よく言われるように到達目標・課目別目標値の設定をし、その結果としての「成果主義」、これは都市の緑被率や、いま盛んに言われておりますCo?削減（何%削減することによって我々は豊かさを獲得できるか）というような成果主義的な目標設定というのがある意味では破綻を来し始めている。その一つの表れとして、今年度秋に名古屋で世界会議COP10が行われますが、その中で一番の課題となっているのが「生物の多様性」について。これは単に生物の種がその存続速度を減速させるということだけでなく、取りも直さず人間自身や文化に対して、また色々な物事に対して価値の多様性を認めましょう、というような形に思考方法を変えていく、これは政府で多様性が謳われ始めました十数年前から、価値・文化の多様性というのは諸刃の刃といえますか、両輪として謳われ始めております。

我々が環境などについて考えるに当たり、Co2の削減、所謂カーボンニュートラルな都市・地域や社会の構築というものを目指したり、またそのために地域や土地の気候、今まで対極的に捉えてきた各地域の気候というものを大変小さなエリアの中で捉えていく。（土地の微気候を活用する）。これは取りも直さず文化、地域の属性、歴史・風土においても、大きく大雑把に捉えるということではなく、その地区固有の考え方や価値、風土というものを大切にしていこうという考え方。更には情報・経済システムを活用することによって、その効果がより効果的に活用されるように考えていく。（環境性能のラベリングによる可視化は社会的な意識改革の上で大きな効果があり、不動産の市場評価と連動する）。更にはライフスタイルの変革を推進していくということ。これは多消費型のライフスタイルからスローライフ、生活環境を健全化し、自然と順応したライフスタイルへ。更にはオープンな環境でなく、クローズドされた地域の特性を生かした地産地消における新しい経済価値の在り方を考えて行こうと思っております。

先ほど言いましたように成果主義（合理主義・機能主義）というもののからも少し柔軟に価値の多様性をもったベクトル、そのような方向性をもった運動体に思考方法を考えて行こうということ（知恵）。これは何も昨今から新しく言われるようになったことではなく、日本人が古来より得意にしてきた物事の捉え方であるといえます。例えばお茶ですが、お茶の目的は何かといえますと、その日においで頂くお客様をもてなすホスピタリティという一点に集約される訳です。その為にお茶の手前、料理、花も庭も建物も必要である。唯一そのベクトルというのは、その当日お見えになる方を誠心誠意もてなす、という方向性をもった運動である。禅というものも大変多くの修行をされますが、これは色々な徳を得て究極は人間の自己確立、人間的な成長を行うための手段である。これは西洋人にはない日本人独特の、日本人が古来より得意とする考え方であり、思考方法なのかな、と思います。

よく我々はまちづくりをする時に”理念”ということをおっしゃにします。”理念”を旗印にあげておけば何か訳のわかったように思いますが、実は私自身多くのまちづくりに関わって来て、どんなに素晴らしい”理念”があってもそこに関わる人々たちの”覚悟”がないとまちは動かないし、まちが豊かになっていくこともないと思います。”覚悟”をもった人間がどれだけいるのか、が大切だということを言っております。ただ単にそれがぶっくら棒な”覚悟”というところではなく、コンプライアンスなど企業人、市民、人としての「倫理観を伴った覚悟＝理念（コンセプト）」なのかな、と私は思います。その「倫理観を伴った覚悟」をもった人間が発する考え方・広報が理念とされるものではないか、と思います。これはよく言われることですが、「人は自然（環境・まち）について多くの知識をもつことが出来るが、自分を取りまく自然（自分の生活する環境・まち）を深く愛する気持ちがなければ、その知識を賢明に使うことはできない」ということ。我々が奉仕などをする時には常にここに立ち戻って考えて行きたいものだな、と思います。奉仕というのが確かに目の前にある困難・辛苦を楽にする、恵まれない人々を豊かにしていく、等目の前になる目的を解消するというものもありますが、それを通じてその先にある目的は何か、と問われるなら、最終的にはやはり自己実現のツール（機会、同志）であると言わざるを得ないのかな、と思います。最近各クラブのメンバー数が減って、大変たくさんの方が退会されているとですが、その多くの論理の中、またこの厳しい経済状況の中でそんな奉仕なんて、そんなことやってられるか、という考え方があり、成程と思うこともありますが、経済的に環境下、価値観が混迷しているという時代だからこそ”奉仕”というふうに見える事もあながち意味はないことではないのではないかと思います。ただ、そのように考えないと価値観が混迷する時代においては、”奉仕”や”環境”を扱うということが大変安易にテーマに挙げられる愚かさ、というのがあります。1960年代にもやはり”奉仕”であるとか”環境”という問題が、戦争に向かっていく政治下、価値観が混迷している時代にあって、環境というものが社会や建築などで大きく捉えられた時代がある訳です。これは場合によっては”奉仕”や”環境”さえテーマに挙げておけば、本質的問題解決への道はある意味曖昧なものにできる、そういう危険性もあるという側面ももっているのかな、と思います。

こういったことを地区の委員会でも話し合っている訳ですが、地区社会奉仕委員会の役割と目的というものは、ご存知の通り、①R.I.ガバナーの方針の展立つ、周知につとめる、②ロータリーの理念に基づく奉仕の情報の共有化（…県内の隣接するクラブ等がお互いに情報を共有する）、③クラブ間のネットワーク化と質の向上、④他団体とのコラボレーションも視野に入れた学習や機会の創出、（ローターのみならずNPOやその他志を同じくする団体との連携を、情報の共有化をすることによってよりその地域にとっての効果的な活動ができる）。ロータリーも含めライオンズなど他の奉仕団体も、会員数の減少等、危機的状況にあります。奉仕団体だけでなく経済も含めた100年に一度の危機と言われますが、捉えようによっては、それは100年に一度の機会とも言えると思います。先程ちょうど100年前にロータリーなど色々な奉仕グループが出来た状況を省みて、人間関係が希薄になり人の絆が弱まってきたことへの危機感を皆が共有している。これは、考えようによっては、新しい人間関係を作る大変大きなチャンスであるとも言えるのではないかと。ロータリーを通じて、また“奉仕”という考え方を通じて人間の絆や人間関係をもう一度確かなものにしていこう、とする与えられたチャンスなのかなと考える事も悪くはない。人を豊かさへ導く手立てを、今、ロータリーを通じて真摯に問う事が大切であるということ、メンバー同士もう一度、再確認するという事でもあるのではないかと思います。

「ロータリーミニ情報」(10)情報委員長 飯田 二昭

◆☒「規定審議会」の採択案について



2010年のR. I. の規定審議会が4月25日から30日までシカゴで開催されました。審議会後、採択された案件すべてを含む決定に関する報告書が、各クラブに送付されることになっています。

採択案について、その一部を紹介します。

＊直前会長がクラブの役員ならびに理事会のメンバーとなる

＊出席免除の会員の年齢に65歳以上の条件が加わる

現行のロータリー歴と年齢の合計が85歳以上に、年齢65歳以上が加わる

＊出席免除の会員が例会に出席した時、その出席はクラブの出席率の算出に使う会員数と出席者数に含まれる

＊4大奉仕部門を5大奉仕部門に改正する

クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、に青少年奉仕部門（新世代委員会）を追加する。

＊R Iの第二の標語を改正する件

One Profits Most Who Serve Best「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

He、They、he/sheからOneに改正

※人頭分担金を増額する。

半期人頭分担金は2010～2011年度：25ドル、2011～2012

年度：25.50ドル、2012～2013年度：26.00ドル、2013～2014年度：26.50ドル。

＊決議23-34の第1項を奉仕の哲学と定義する

決議の第1項：「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う、他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―超我の奉仕の哲学であり、これは“最もよく奉仕する者、最もよく報いられる”という実践的な倫理原則に基づいている。」

＊審議会決定の一時保留に関する規定を改正する件

審議会決定の一時保留に関する投票10%を5%にする

各クラブは、立法案採択における審議会の決定に反対の意思表示を書面で提出する機会が与えられています。有効投票の少なくとも5%が反対の意思表示をした場合、その効力は一時保留されることになっています。制定案は一時保留とされない限り審議会閉会直後の7月1日にその効力を生じる事になります。

尚、新しい手続要覧の日本語版が手に入る時期は未定だそうです。